

アトトリ[®]1キロ粒剤 ドローン散布目安表

 **NTT e-Drone Technology AC101/AC101connect**

dji AGRAS T10/T30
AGRAS MG-1
AGRAS T20

企画普及部 普及課

 **クミアイ化学工業株式会社**

®はクミアイ化学工業（株）の登録商標

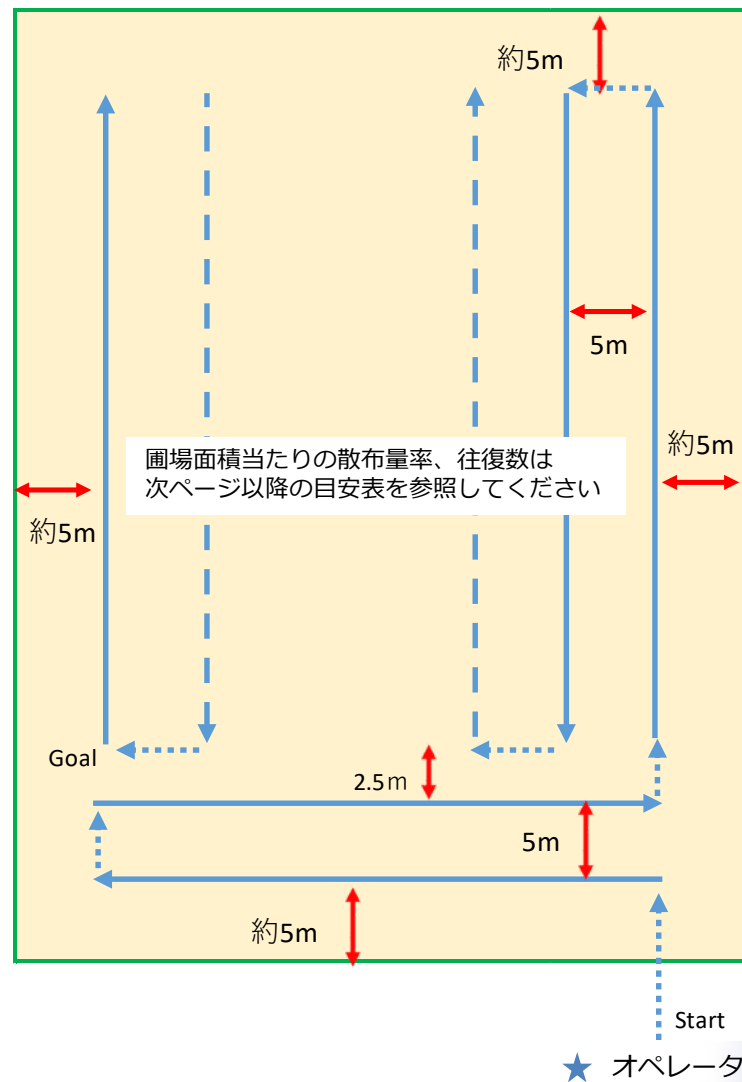
AC101 / AC101connectによる1キロ粒剤散布方法

以下の設定で散布する場合の散布量率と往復数の目安表を次ページ以降に示しました。
(往復数は枕地横方向の飛行除く)

パラメーター設定

飛行速度	: 15 km/時
散布幅 (飛行幅)	: 5 m
インペラ回転数	: 中
飛行高度	: 2 m

飛行ルート例



- ✓ 薬剤が圃場外に飛び出さないように、前後左右の畦畔から5m内側を飛行して散布するようにしてください。 **【緩衝区の確保】**
- ✓ ドローンの飛び出しによる危険を防止するため、オペレーター側の枕地は、横方向に1往復飛行してから縦方向に往復飛行して散布するようにしてください。 **【オペレーターの安全確保】**

圃場サイズ別の往復数と散布量率の目安表

		短辺 m									
		20	30	40	50	60	70	80	90		100
往復数		1.5	2.5	3.5	4.5	5.5	6.5	7.5	8.5	9.5	
長辺 m	20	58	—	—	—	—	—	—	—	—	散布量率 (%)
	30	49	44	—	—	—	—	—	—	—	
	40	44	44	42	—	—	—	—	—	—	
	50	44	42	42	41	—	—	—	—	—	
	60	44	42	41	41	40	—	—	—	—	
	70	44	42	41	40	40	40	—	—	—	
	80	42	41	40	40	40	40	39	—	—	
	90	42	41	40	40	40	39	39	39	—	
	100	42	41	40	40	39	39	39	39	39	

XX 薬剤が余る可能性が高いため(余った薬剤を使用した)補正散布が必要です。

緩衝区、横方向への飛行を考慮しない場合の理論値 散布量率：37 %

※数値は社内試験による理論値です。実際には振動などにより散布量が変わることを考慮して散布してください。
 ※圃場外に薬剤が飛散しないよう、インペラ回転数を確認し、圃場の端から5m内側を飛行してください。

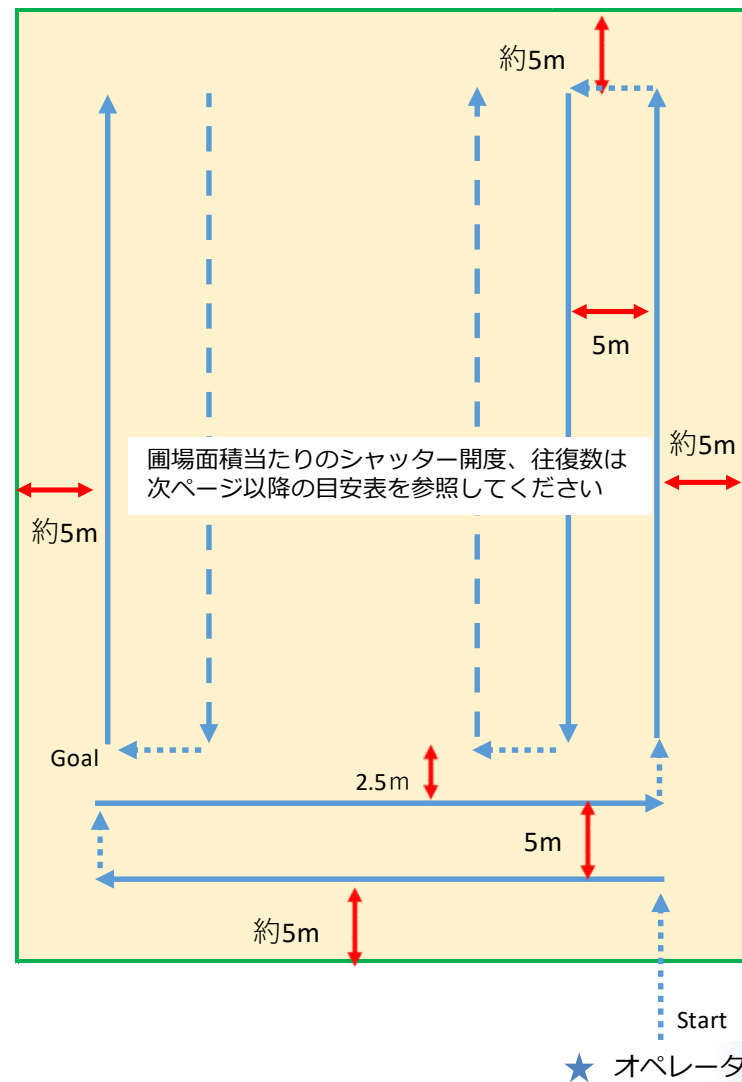
圃場サイズ別の往復数と散布量率の目安表

		短辺 m									
		20	30	40	50	60	70	80	90		100
往復数		1.5	2.5	3.5	4.5	5.5	6.5	7.5	8.5	9.5	
長辺 m	20	52	—	—	—	—	—	—	—	—	散布量率 (%)
	30	35	27	—	—	—	—	—	—	—	
	40	29	25	22	—	—	—	—	—	—	
	50	27	23	22	20	—	—	—	—	—	
	60	25	22	20	20	18	—	—	—	—	
	70	25	22	20	18	18	18	—	—	—	
	80	23	20	18	18	18	18	16	—	—	
	90	23	20	18	18	18	16	16	16	—	
	100	23	20	18	18	16	16	16	16	16	

緩衝区を考慮しない場合の理論値 散布量率：13%

※数値は社内試験による理論値です。実際には振動などにより散布量が変わることを考慮して散布してください。
 ※圃場外に薬剤が飛散しないよう、インペラ回転数を確認し、圃場の端から5m内側を飛行してください。

飛行ルート例



以下の設定で散布する場合のシャッター開度と往復数の目安表を次ページ以降に示しました。
(往復数は枕地横方向の飛行除く)

パラメーター設定

飛行速度	: 15 km/時
散布幅 (飛行幅)	: 5 m
インペラ回転数	: 600 rev/min
飛行高度	: 2 m

- ✓ 薬剤が圃場外に飛び出さないように、前後左右の畦畔から5m内側を飛行して散布するようにしてください。 **【緩衝区の確保】**
- ✓ ドローンの飛び出しによる危険を防止するため、オペレーター側の枕地は、横方向に1往復飛行してから縦方向に往復飛行して散布するようにしてください。 **【オペレーターの安全確保】**

T10/30 による1キロ粒剤散布に関する注意点

 **重要：必ずお読みください！**

本マニュアルに掲載した目安表は、弊社研究所所有の機体 AGRAS T10による吐出データに基づいて作成したものです。

DJI JAPAN株式会社から、AGRAS T10/30で1キロ粒剤を散布する場合、機体によってシャッター開度に1%程度の誤差が認められており、吐出量では最大30%程度の誤差が生じる恐れがあるとの注意喚起がなされております。

適性な量を散布していただくために、散布前に**必ずお手持ちの機体を用いて吐出量を確認**し、機体ごとにシャッター開度を調整してから散布するようにしてください。

参考) 1分間の吐出量目安 1250 g (飛行速度15km)

圃場サイズ別の往復数とシャッター開度の目安表

		短辺 m									
		20	30	40	50	60	70	80	90		100
往復数		1.5	2.5	3.5	4.5	5.5	6.5	7.5	8.5	9.5	
長辺 m	20	14.6	—	—	—	—	—	—	—	—	シャッター 開度(%)
	30	12.5	11.7	—	—	—	—	—	—	—	
	40	11.9	11.2	10.9	—	—	—	—	—	—	
	50	11.5	11.0	10.7	10.6	—	—	—	—	—	
	60	11.3	10.8	10.6	10.5	10.4	—	—	—	—	
	70	11.2	10.7	10.5	10.4	10.4	10.3	—	—	—	
	80	11.1	10.7	10.5	10.4	10.3	10.3	10.2	—	—	
	90	11.1	10.6	10.4	10.3	10.3	10.2	10.2	10.2	—	
	100	11.0	10.6	10.4	10.3	10.2	10.2	10.2	10.1	10.1	

緩衝区、横方向への飛行を考慮しない場合の理論値 シャッター開度：9.8 %

※数値は社内試験による理論値です。実際には振動などにより散布量が変わることを考慮して散布してください。

※圃場外に薬剤が飛散しないよう、インペラ回転数を確認し、圃場の端から5m内側を飛行してください。

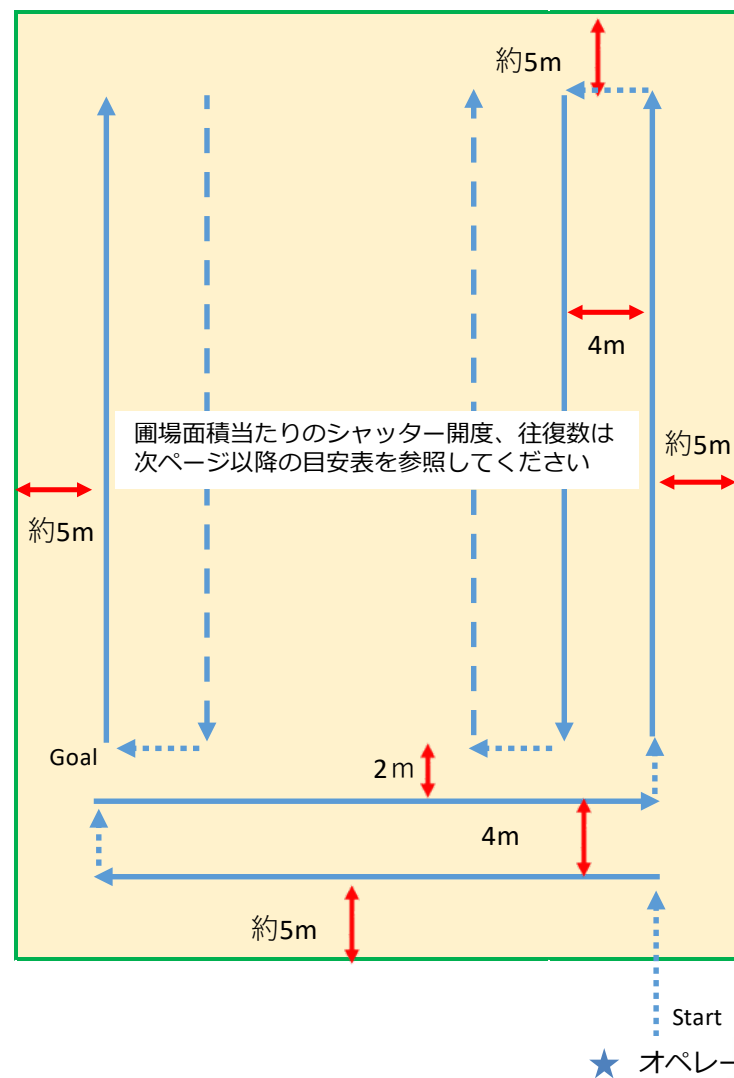
MG-1 による1キロ粒剤散布方法

飛行ルート例

以下の設定で散布する場合のシャッター開度と往復数の目安表を次ページ以降に示しました。
(往復数は枕地横方向の飛行除く)

パラメーター設定

飛行速度	: 15 km/時
散布幅 (飛行幅)	: 4 m
インペラ回転数	: 1200 rev/min
飛行高度	: 2 m



✓ 薬剤が圃場外に飛び出さないように、前後左右の畦畔から5m内側を飛行して散布するようにしてください。 **【緩衝区の確保】**

✓ ドローンの飛び出しによる危険を防止するため、オペレーター側の枕地は、横方向に1往復飛行してから縦方向に往復飛行して散布するようにしてください。 **【オペレーターの安全確保】**

圃場サイズ別の往復数とシャッター開度の目安表

		短辺 m									
		20	30	40	50	60	70	80	90		100
往復数		2.0	3.0	4.5	5.5	7.0	8.0	9.5	10.5	12.0	
長辺 m	20	35.4	—	—	—	—	—	—	—	—	シャッター 開度(%)
	30	28.3	25.0	—	—	—	—	—	—	—	
	40	26.0	23.2	22.2	—	—	—	—	—	—	
	50	24.8	22.4	21.4	20.9	—	—	—	—	—	
	60	24.1	21.8	21.0	20.5	20.1	—	—	—	—	
	70	23.7	21.5	20.6	20.1	19.8	19.7	—	—	—	
	80	23.3	21.2	20.4	19.9	19.7	19.5	19.3	—	—	
	90	23.1	21.1	20.2	19.8	19.5	19.3	19.2	19.1	—	
	100	22.9	20.9	20.1	19.7	19.4	19.2	19.1	19.0	18.9	

緩衝区、横方向への飛行を考慮しない場合の理論値 シャッター開度：17.4 %

※数値は社内試験による理論値です。実際には振動などにより散布量が増減することを考慮して散布してください。
 ※圃場外に薬剤が飛散しないよう、インペラ回転数を確認し、圃場の端から5m内側を飛行してください。

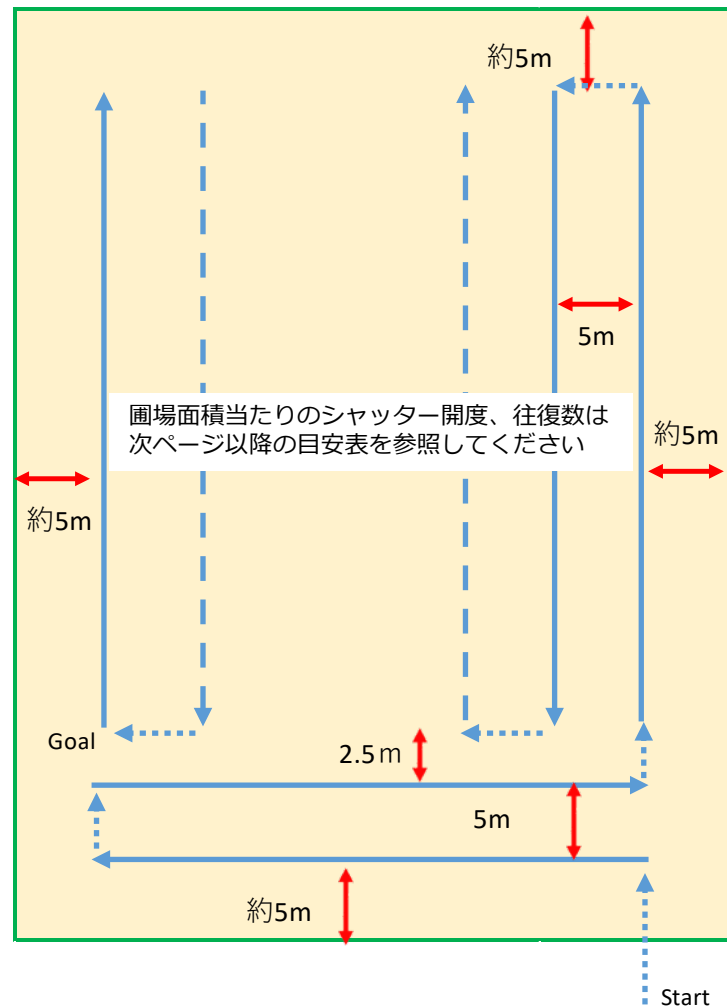
T20 による1キロ粒剤散布方法

飛行ルート一例

以下の設定で散布する場合のシャッター開度と往復数の目安表を次ページ以降に示しました。
(往復数は枕地横方向の飛行除く)

パラメーター設定

飛行速度	: 15 km/時
散布幅 (飛行幅)	: 5 m
インペラ回転数	: 1200 rev/min
飛行高度	: 2 m



✓ 薬剤が圃場外に飛び出さないように、前後左右の畦畔から5m内側を飛行して散布するようにしてください。 **【緩衝区の確保】**

✓ ドローンの飛び出しによる危険を防止するため、オペレーター側の枕地は、横方向に1往復飛行してから縦方向に往復飛行して散布するようにしてください。 **【オペレーターの安全確保】**

圃場サイズ別の往復数とシャッター開度の目安表

		短辺 m									
		20	30	40	50	60	70	80	90		100
往復数		1.5	2.5	3.5	4.5	5.5	6.5	7.5	8.5	9.5	
長辺 m	20	41.9	—	—	—	—	—	—	—	—	シャッター 開度(%)
	30	32.4	28.5	—	—	—	—	—	—	—	
	40	29.3	26.4	25.2	—	—	—	—	—	—	
	50	27.9	25.3	24.3	23.7	—	—	—	—	—	
	60	27.0	24.6	23.7	23.2	22.8	—	—	—	—	
	70	26.4	24.2	23.3	22.8	22.5	22.3	—	—	—	
	80	26.0	23.9	23.1	22.5	22.3	22.0	21.9	—	—	
	90	25.7	23.7	22.8	22.4	22.1	21.8	21.7	21.6	—	
	100	25.5	23.5	22.7	22.2	21.9	21.8	21.6	21.5	21.4	

緩衝区、横方向への飛行を考慮しない場合の理論値 シャッター開度：19.7 %

※数値は社内試験による理論値です。実際には振動などにより散布量が増えることを考慮して散布してください。
 ※圃場外に薬剤が飛散しないよう、インペラ回転数を確認し、圃場の端から5m内側を飛行してください。